

改革推進会議「施策点検部会」 教育・環境部会資料

宍道湖・中海の水質保全 と賢明な利用の推進について



島根県環境生活部

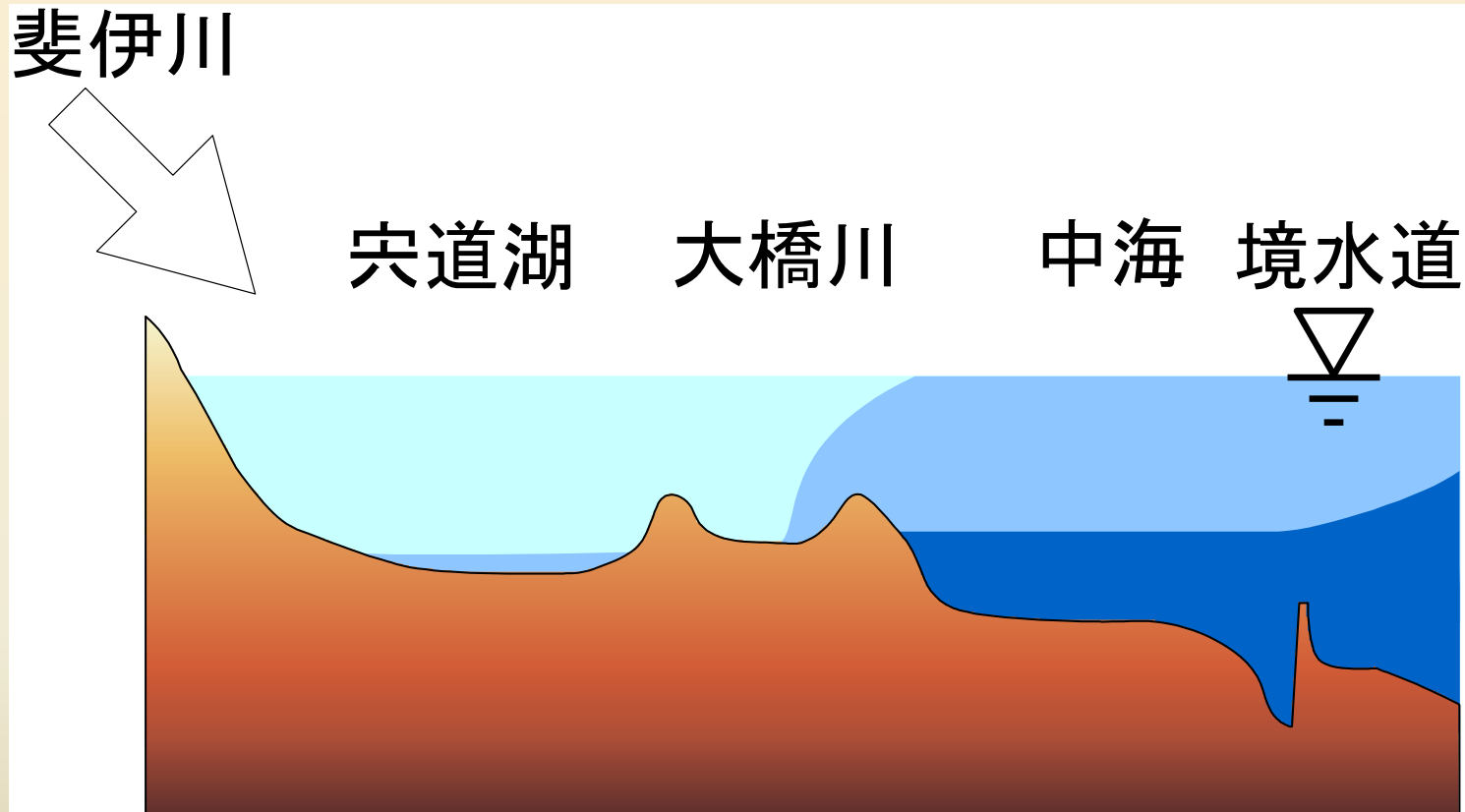
【施策の背景】

① 穴道湖・中海の水質保全

穴道湖・中海の概要

穴道湖		中海	
湖面積	81.8km ² (全国7位)	湖面積	92.1km ² (全国5位)
流域面積	1288.4km ²	流域面積	595km ² (島根県側 538.5km ²)
流域人口	27.0万人	流域人口	16.1万人 (島根県側7.9万人)
主な利用	水産、観光、レクリエーション	主な利用	水産、観光、レクリエーション

穴道湖・中海を横から見ると

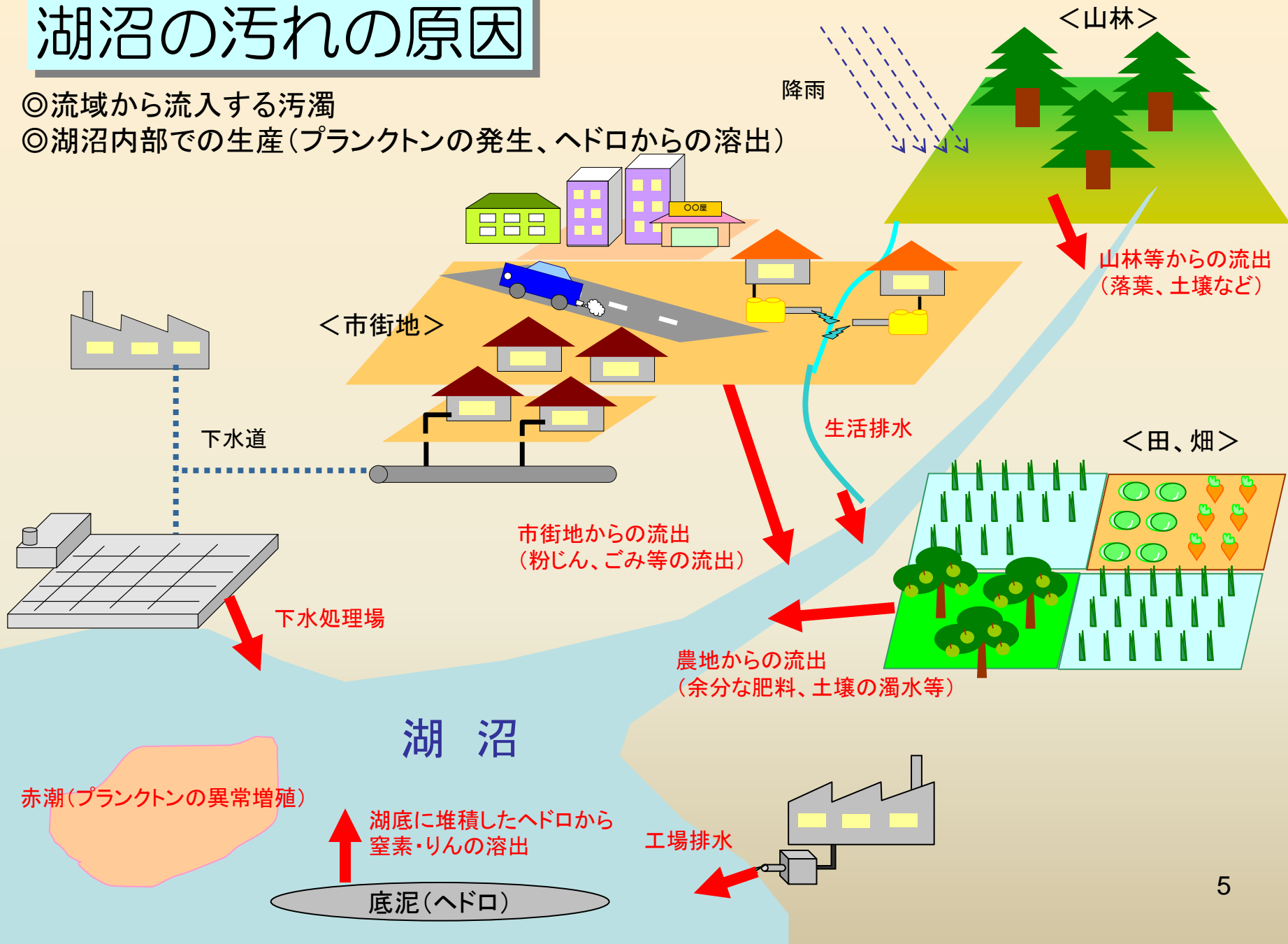


- ・ 穴道湖・中海とも淡水と海水が混じり合った汽水湖。
- ・ 塩分濃度は穴道湖が海水の約1/10、中海が海水の約1/2。

湖沼の汚れの原因

◎流域から流入する汚濁

◎湖沼内部での生産(プランクトンの発生、ヘドロからの溶出)



湖沼水質保全特別措置法（湖沼法）

湖沼は水が滞留するという閉鎖的な水理上の特性を持つ

- ・ 流入した汚濁物質が蓄積しやすく、水質汚濁が進みやすい
- ・ いったん汚濁が進むと水質改善は容易でない

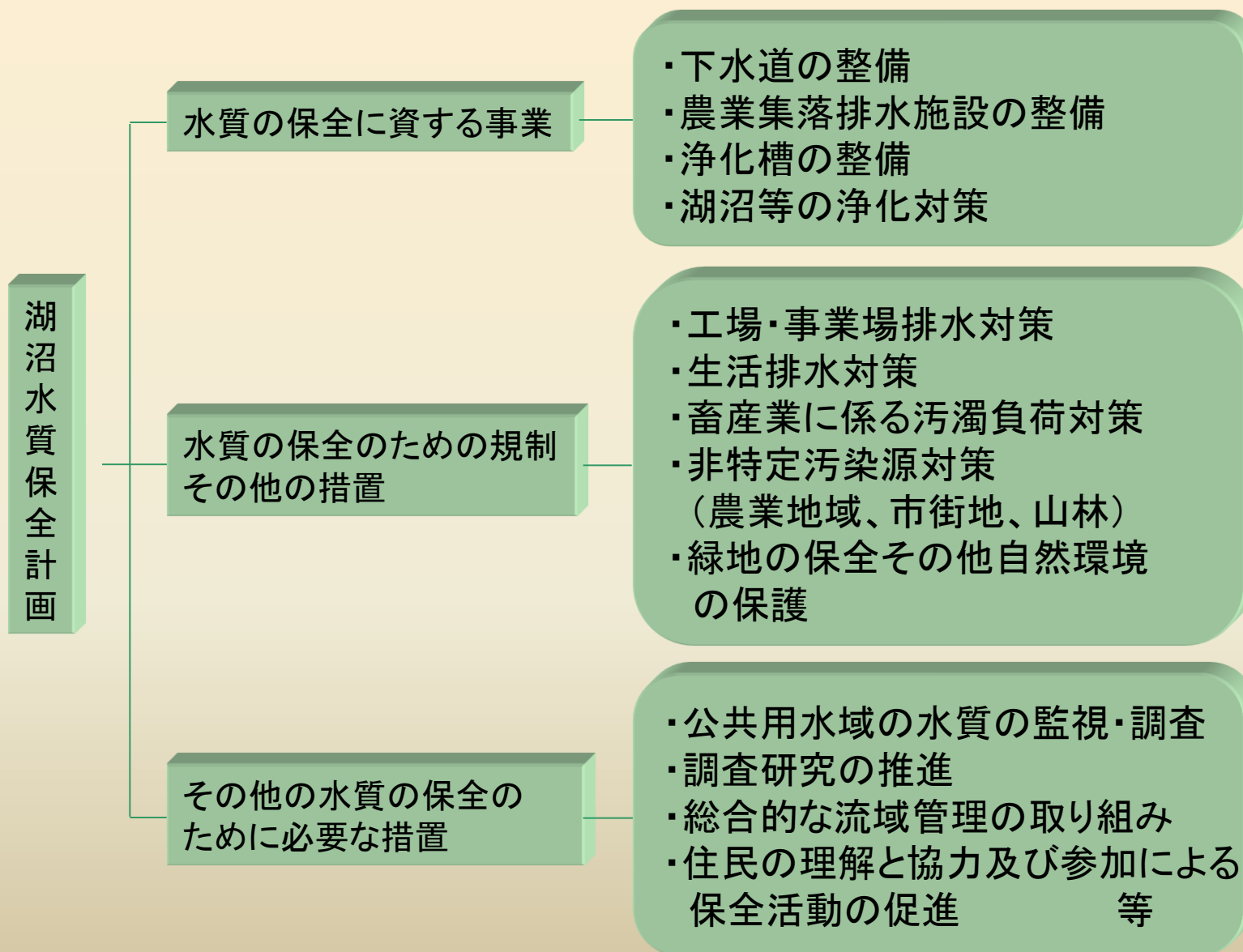
⇒ 河川などに比べ
一段進んだ水質保全対策が必要

◎湖沼水質保全特別措置法（湖沼法）が昭和59年に制定。



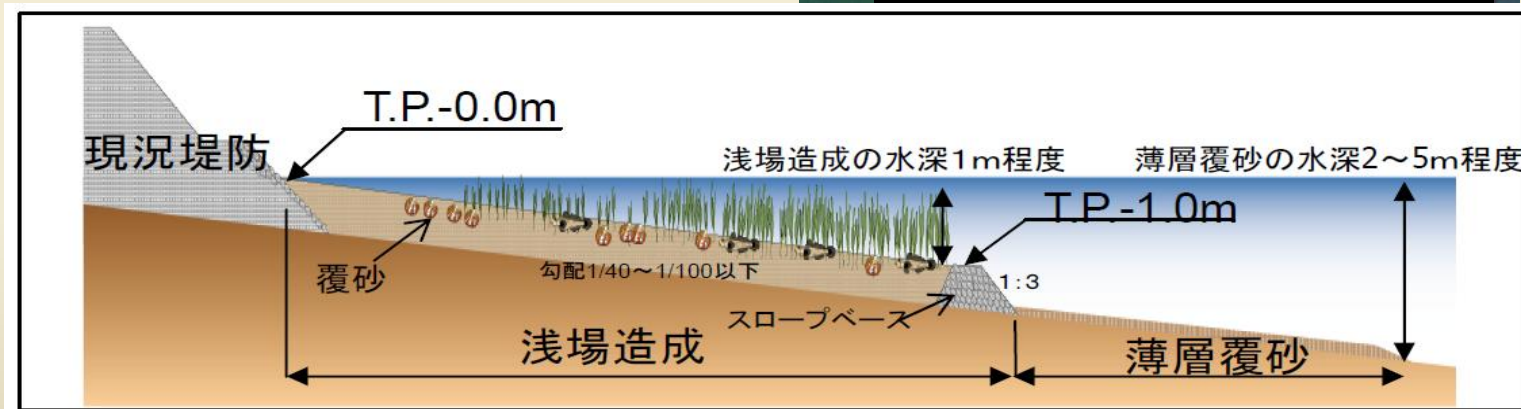
◎央道湖・中海では、湖沼法に基づく「湖沼水質保全計画」を平成元年度に策定し、4期20年にわたり、計画に基づく水質改善対策を実施。（中海は島根・鳥取両県で策定）

第1期～第4期湖沼水質保全計画の施策体系



自然の浄化機能の回復<浅場・藻場の造成>

(国土交通省出雲河川事務所実施)



期待される主な効果

- ◎藻場、貝類等の生物生育・生息環境の改善
- ◎親水性・景観の改善
- ◎砂浜による汚濁物質の捕捉
- ◎底泥の巻き上がり抑制による透明度の向上
- ◎窒素・リンの底泥からの溶出抑制

【農業地域対策】

施肥量の適正化 —環境にやさしい農業の推進—

- 側条施肥田植機の導入
- 緩効性肥料、有機質肥料の利用 など



(側条施肥田植機)

【市街地対策】

市街地から降雨に伴い流出する汚濁の削減

- 道路路面、側溝等の清掃
- 地域住民の協力を得た小水路、宅地等の清掃 など



(路面清掃)

【森林地域対策】

森林の適正管理による濁水流出の防止

- 補植、下刈り、間伐 など

下刈り: 植栽した若木がまわりの草に覆われて枯れないよう、草刈りをします。



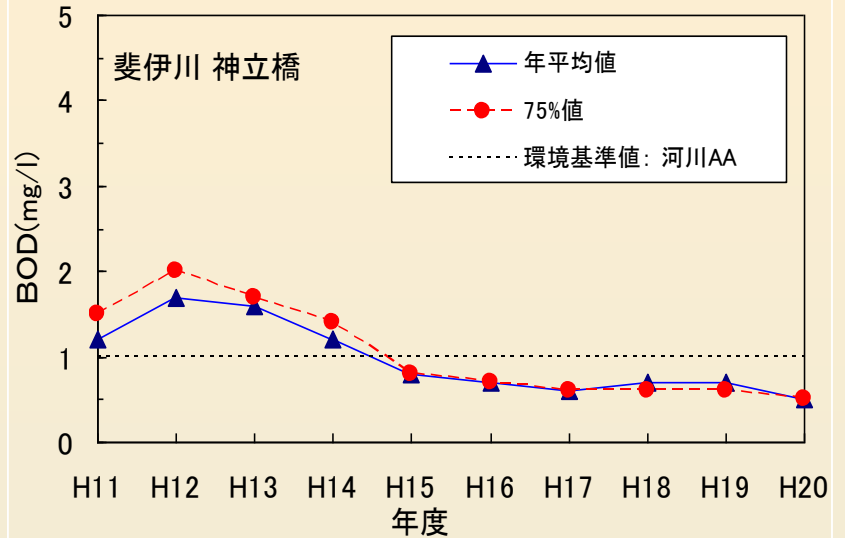
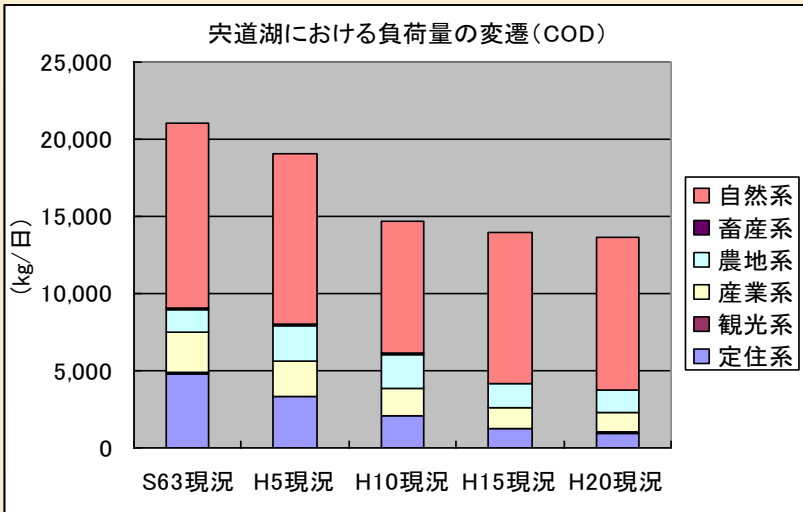
(下刈り)

【流入河川直接浄化対策】

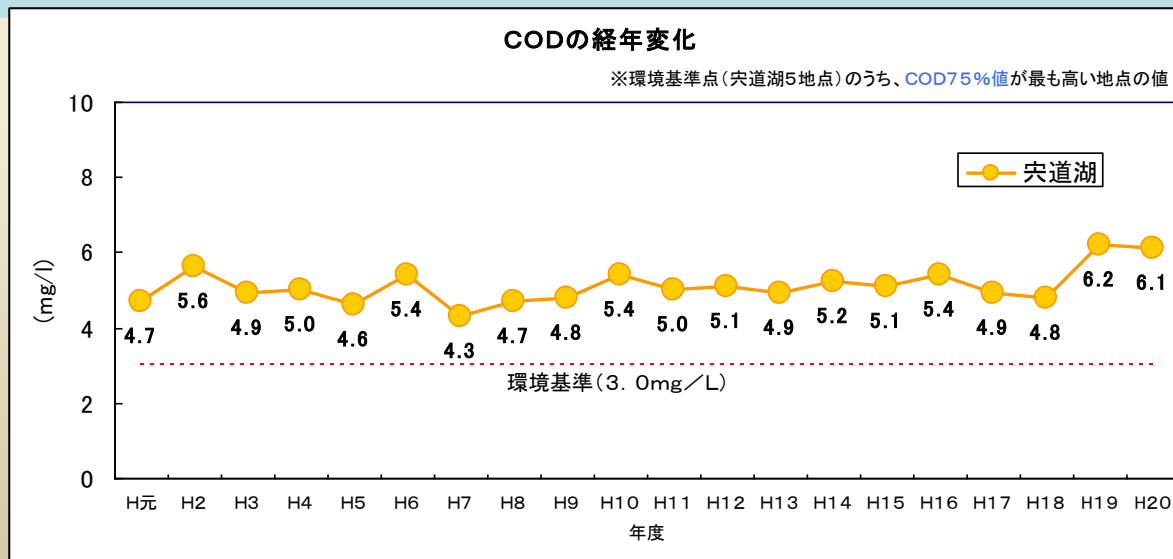
排出された汚濁が、河川を通じて湖に流入することへの対策

- 河川の底泥しゅんせつ など

施策の進捗により流入負荷は削減、河川水質も改善



しかし、湖内の水質は横ばい



■ 汚濁メカニズムは複雑、十分な解明はできていない

